

香川大学生涯学習教育研究センター

NEWSLETTER

Vol.1 No.1

発行:平成16年5月25日

◆◇◆創刊の辞◆◇◆



いつも生涯学習教育研究センターの活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

このたび当センターでは、その活動を大学の教職員の方々にお知らせし、皆様からより一層のご理解とご協力を得ることによってセンターの機能充実を図りたいと願い、「ニュースレター」を発行することになりました。

法人化した大学では、教育の充実、研究の高度化とともに地域への貢献を使命として果たしていく必要があります。当センターは、教育面での地域貢献をめざして昭和53年に国立大学の中で三番目に設置された歴史を有し、それ以後、地域住民への公開講座を中心として積極的な活動を展開して参りました。しかし今後はその歴史に寄りかかることなく、より一層地域住民の学習ニーズに応えられるようにセンター機能の充実を図っていかねばならないと考えています。それにあたっては、全学の教職員の方々からのご協力が不可欠であり、センターの活動や情報を「ニュースレター」でお伝えすることによって、皆様のご理解とご協力が深まることを願っています。

香川大学生涯学習教育研究センター長(企画担当理事) 上杉 正幸

◆◇◆センター活動紹介◆◇◆

- 公開講座を企画・実施しています。今年度は学内外からのご協力により、全28講座の実施予定です。
講座例:「司法制度改革を考える」「シェイクスピア英国歴史劇の面白さー大四部作」「生活習慣病の予防に役立つ新しい知識」、等
- 公開講座以外にも、地域住民の皆様は大学の講義に触れて頂くため、2004年3月に県教育委員会と香川大学が協定を結び、本年度より「かがわ県民カレッジ 研究・実践講座」を実施することになりました。これは、公開講座のように一般の方を対象とした特別な講義ではなく、普段学生に提供している講義を「公開」するものです。
2004年5月13日(木)には、同事業について四国新聞で報道されました。
- 公開講座、公開授業以外にも、学部等と連携して開放事業のお手伝いをしたり、また地域貢献に関する学内情報の集約に努めています。これからそれぞれの部局で関連事業を始めたいと思っていられる方は、是非気軽にご相談ください。
- また、専任教員(助教授1名、講師1名)は地域貢献の第一線に立って活躍すべく、高松市地区公民館職員研修会や、主に高松市で地域活動をしている人々の研修機会である「生涯学習コーディネーター養成講座」の講師を務めるなどしています。
- 研究成果の発表のため、毎年1回『香川大学生涯学習教育研究センター研究報告』を出版しています。(2004年現在、8号まで。バックナンバーについてはお問い合わせください。)

上杉正幸(センター長)

法人化によってセンターの活動も規制緩和されました。「まずやってみよう」の精神で、若い二人の専任教員やベテランの職員とともに、いろいろなアイデアを出し合うことを楽しんでいます。

清國祐二(専任教員:助教授)

青少年学校外教育や体験活動が研究関心。フィールドワークとして地元栗林や松江(島根県)でプレーパーク(冒険遊び場)を継続中。讃岐人とも交流が深まり、すっかり'讃岐おやじ'の仲間入り。センター3年目。

山本珠美(専任教員:講師)

4月に着任しました。主に科学・技術上の論争的課題に関する公共的な学習機会提供のあり方について研究しています。大学の持つ専門知をいかに地域社会に活用していくのか、少しずつ考えていきたいと思っています。

西山雪信(専門職員)

新しい香川大学が生まれ、本センターも新しいスタートをしました。目的達成のため、新たな気持ちでお手伝いをしたいと思っています。

山下郁代(事務補佐員)

公開講座に関する事務的な仕事をしています。講座の受け付けの際に接する受講生の方々は、みなさん熱心で、私もかなり刺激されております。